

## 第2回美祢市総合計画審議会 観光・産業部会 議事録

日時：令和元年7月12日（金）18：30～

会場：美祢市民会館 第1会議室

	委員区分	団体名	氏名	出欠
1		美祢市市議会	竹岡 昌治	
2	副部会長	美祢市市議会	猶野 智和	欠席
3		山口美祢農業協同組合	山本 善継	欠席
4		カルスト森林組合	高須 修三	
5		美祢市商工会	内藤 正太	
6	部会長	美祢市観光協会	水谷 雅哉	
7		美祢市定住促進協議会	永谷 青空	欠席
8		公募	植山 正雄	
9		公募	梶岡 秀吉	
10		連合山口地域協議会	永井 政夫	欠席

### <資料>

#### 次第、委員名簿

第二次美祢市総合計画「基本計画」素案

第二次美祢市総合計画「総合戦略」素案

### 1 開会

欠席の連絡

～資料の確認～

### 2 部会長あいさつ

～水谷部会長ごあいさつ～

前回に引き続いてご審議いただくが、2回ということなのでこれでおおよそ大きな部分は決まってしまう。忌憚のない意見をいただきたいと思う。

### 3 議事

(1) 第二次美祢市総合計画基本計画の関係部門（案）について

部会長：基本方針1から3まで今回、KPIが追加されていますが、それらも踏まえてご議論いただけたいと思います。

委員：1ページの主な取組の2番、三洞などを活用した体験プログラムを造成しますとあるが、この造成は正しいのか。この造成は本当は自然のものに対して人工のものを加えて創り上げたものであるため宅地造成という言葉に近い。

部会長：業界では商品造成という言葉を使うが、一般的かどうかはわからない。

事務局：前回ご意見をいただいた以外の内容については、所管課からこういう風に回答ということで投げかけており、その内容を生かしている。そういったご意見であれば造成のあり方が業界用語でいくのか市民にわかりやすい言葉でいくのかについては持ち帰って考えたい。

委員：4ページの現状と課題の3番目でこれは知らなかったが複数の該当団体がある。その文章の中で利用がニーズに即した体制とつながっているが読み替えば利用とニーズはほぼ同じような気がする。例えばここで言えば利用者がニーズをとるのかということと即したという言葉は対応と言う言葉になるので変化に対応するという意味を含んでくる。利用がニーズというのは読めないと思う。

事務局：利用がニーズにということが同意語というのはよくわかる。再検討をしたい。無料のガイドや有料のガイドなど2種類がある。無料は定点のボランティア、有料は受付があり動くボランティアとなる。観光客が求めているものがどちらなのか。こういった内容はこちらですなどそういったサービスの2元的な観光客目線になっていないのではということを書いた。

部会長：観光客がわかりにくい。自分がこういう希望があり、その場合どこに連絡すればよいのかわからない。

事務局：もう少し市民にわかりやすい言葉としたい。

部会長：現場でいるとお客さんから観光協会に電話がかかったとき、それはあそこです、それはこちらです、など交通整理が必要となってくるのは事実である。ジオパーク推進課に連絡がいたり、観光協会、観光振興課にかかってくる。そこなのではと思う。いろんなタイプのガイドがいることはよいと思うが、交通整理ができていない。それが現場の感覚である。

委員：あとは有料と無料で交通整理が違ふと思う。いろんな団体があるのであれば。

事務局：窓口が分散しているのが問題だと思う。

委員：2ページの観光交流人口はあえて29年の数値を使っているのか。30年が公表されているのでは。

事務局：県としての統計がおそらく出ていない。あの数値は県が集約しており、ホームページに掲載しているが、だいたい9月過ぎぐらいに公表される。

委員：130万人くらいではなかったか。

部会長：県の集計が出るのは12月くらいではなかったか。

事務局：県の動態調査は年を出しているかもしれない。再確認する。

委員：下は30年で書いてあり、そこだけ29年だったので減ったから29年で書いたのかと思った。新聞各紙のものが出たので、公の統計が出たのではと思う。

部会長：確認をお願いします。1ページの主な取組で3番目の交通アクセスの整備だが、新山口駅や宇部空港からの二次交通対策を行う。特に空港からは何もない。それとともに自然環境と保全に合わせた観光を楽しむ交通体系の整備をしますとあるが、いわゆる三次

交通だと思う。KPI が秋吉台かるとタクシー乗客数とあるがこの人数について、拠点からの KPI はないということか。交通結節点としての山口宇部空港からなどが書いてあるが。

事務局：交通アクセスの整備の中での取組として2つあると思う。二次交通と三次交通。この二次交通に取り組むのはほんとに難しい課題だと思う。二次交通の解決対策としては、夢回廊の博覧回が2年後くらいにある。県央連携として取り組むがそのときに二次交通対策を行うとは思っている。市単独ではなく、県央連携という枠組みの中で二次交通が可能なのかなと思う。単市でいうと一番取組まないといけないのが秋吉台の自然環境の保全に合わせたEVなどの車やレンタサイクルなどが主などでは事務局では思っている。指標では1取組に1指標がベストであると考え、取り上げやすいのがかるとタクシーなのかと思っている。

部会長：かるとタクシーは小さい話である。本題は二次交通としてのそちらのほうが大きい話ではないか。

事務局：どういったKPIがよいか。乗降者数なのか。

部会長：空港からここまでの交通がゼロである。それをどうするかを考えるのがKPIではないか。

事務局：空港から秋吉台につれてくるKPI。

部会長：新山口駅のバスの便数が減っている。このままだとなくなると思う。それに対して何も手を打たないのかということである。交通結節点からここまでの二次交通であり、かるとタクシーは三次交通になる。切実な問題だと思う。特にインバウンド、個人客にとっては、下関からのバスもなくなっている。

事務局：バスや空港からの二次交通対策として単市としてはなかなか対策が打てない状況なので考える方策としてレンタカー対策といったことは考えていると思う

部会長：KPIとして何も設定していないということであれば何もしないということでは進められるということではよいか。

事務局：KPIを作れないところについてはないが、基本は1取組1指標としている。3の中ではKPIが作れるとすればかるとタクシーもしくはレンタカーであるが、レンタカーはまだ何も決まっていない。EVも所管課として全く決めていない状況である。そのような予算の枠組みがない中でKPIを作ることが難しい。

部会長：予算があるからKPIなのか。KPIを決めて予算を決めるということだと思っていたが、そうでないなら、1取組で1指標であればそういう。

事務局：このかるとタクシーについてはKPIとしてふさわしくないということで所管課で検討したいと思う。

部会長：話として小さい話だと思う。

委員：インバウンドを狙うなら。現状では全くアクセスしていない。

部会長：観光協会に関係するところで3ページの目標指標について、外国人観光案内所を令和5年にカテゴリーⅢをとるという目標だが予算根拠がないと出来ない話である。カテゴリーⅢは常時、英語とほかの2か国語を年中無休で対応しないといけない。そうすると6人必要となる。今カテゴリーⅡを2人でやっている。カテゴリーⅢを取るためにはあと4人増やすことになる。ここに書くということは目指していくことになる。受け取った側はやるつもりであるが、果たして予算はつくのかと思う。

事務局：所管課が書いたので観光協会にとって良い話だと思う。事務局案は外国人対応のガイド数としていた。所管課自らが観光案内所としてきた。

部会長：カテゴリⅢというのは全国案内もしないといけない。果たして現実的なのかを認識されてこれを出されているのか。ここに観光客が来たときに大阪の案内や九州の案内もしないといけない。カテゴリⅢは東京駅や大阪駅にあるようなもの。

事務局：このインバウンドを目指すときにカテゴリⅢを目指すのは秋吉台や秋吉洞の観光地を全国ブランド化するには必須なのではと思う。うちの観光を本物にするには必須ではと私は思う。

部会長：カテゴリⅢではなく言葉が話せる人が必要なのでは。

事務局：それを指標として表せるものがカテゴリⅢなのではと所管課から出ている。

部会長：対応可能言語数などとしてはどうか。観光案内所となると JLT0 と定期的な査察的なものがある。英語とフランス語と中国語に対応する。それでも大変だと思う。カテゴリⅢは6人用意しないとイケない。目指すのは賛成だが本当にやるのであれば所管課の思いと思うが、受け取るほうはかなり真剣にやらないとイケない。

事務局：外国語の数というよりも公的な言葉、資格のほうが市の計画としてふさわしいのではと思う。

部会長：観光案内所が現在1か所しかない。例えばもう1か所上でつくって体制を整える。

事務局：上でも道の駅なども考えられる。

部会長：そのようにすればカテゴリⅢではなく、観光案内所の充実で2つ作るなどでもよいと思う。

事務局：専門部会の意見として目標指標は外国人観光案内所数にしたいと思う。

部会長：カテゴリⅢは凄いハードルが高い。

委員：この目標は令和6年だが、Wi-Fi や受付対応などはAI も含めてそういう対応を視野に入れておかないと5年でごろっと変わる。もっとビッグデータになると思う。あってもよいがおもてなしの部分との整合性を図らないとイケない。この5年間で IOT どころではなく、IOT アジリティなどもきている。このあたりもこの5年でごろっと変わると思う。

部会長：そこまでかけてやるステイタスが必要かと思う。

委員：そこまで考えてカテゴリⅢなども考えないとやりすぎてしまうことになる。

部会長：この計画は修正もできるのか。

事務局：5年計画となるためその時点での修正はできる。

部会長：私はカテゴリⅢはいろんな意味で今言われたこともあるが、人が3か国語で6人を目指すべきというのはジオパークもあるのでわかるがハードルが高いと思う。案内だけでも6人必要になる。あとはよろしいか。

事務局：9ページの主な取組の1番の博物館機能等の充実、2番がユネスコ世界ジオパークの認定の並びとなっている。所管課はユネスコ世界ジオパークの認定を1番にするべきだと意見が出ている。前回の意見を踏まえ、博物館を1番にしているがこのあたりのご議論をいただきたい。

部会長：意見はありますか。

事務局：ないようなので1番を博物館、2番を世界ジオパーク認定とさせていただきます。

部会長：6ページの主な取組の1イベントの強化による交流の促進について、目標指標の美祢秋吉台ジオパークマラソン参加者数となっているが、その下にツーリズム参加者数（ジオ以外）となっているが、ここだけジオパークマラソンを取り上げなくてもよいのでは。例えばスポーツツーリズムとか。

事務局：これはツーリズムが①となっているので誤解を与えているかもしれない。実際は②となる。①イベント強化による交流の促進の中で何か一つ一事業をひろったものが①で、2のツーリズムの強化でツーリズムの参加者数を入れている。

部会長：スポーツツーリズム、サイクルツーリズムなどの参加者数全体をスポーツツーリズムでくくったほうがよいのでは。

事務局：1番はイベント、2番は地域資源を活かしたツーリズムというのが上段でそれとともに受入れ地域の組織と人材の育成で今後どんどん広げていく。2番はスポーツ系を書いていない。マラソンは主な取組の1番に入る。みねすろんもマラソンも主な取組の1となる。

部会長：合算してスポーツツーリズムとしたほうがよいのでは。自転車でいえばみねすろんやままちやりがある。歩くほうではウォーキング、走るのであればトレイルランやマラソンもある。それらをくくったほうがよいのでは。

事務局：伸び悩んでいるので指標にしたのもある。

部会長：そういうブランディングのほうが大切だと思う。

委員：何かのイベントがなくなっているという話になると困る。全体の交流の促進ならば全体のスポーツイベントの参加者数でくくったほうがわかりやすい。

事務局：強みを活かした「産業の振興」の説明

部会長：何か意見はあるか。

委員：小さいことですが、20ページの六次産業の現状と課題のミネコレについて、認定基準が不明確というのは誰に対して不明確なのか。認定基準ははっきりしていると思う。

事務局：所管課に確認する。

委員：認定された人たちは何だったのかとなりうらと思う。そのほかの文章は大事なことだと思うが、その部分は書く必要があるのかと思う。

委員：11ページの主な取組の3農業等生産基盤整備の推進について、こういうことをやっていけないといけないというのはあるが、それに向けての方策が一番困っている。特に圃場整備などある程度世話をする人材がいるところは何とかやっていけるが、手がつかないところがたくさんある。秋吉洞の入り口の整備などはある程度農協にかんでもらうのかあるいは行政主導していくのかその辺りの道筋を示さないと絵に書いた餅になる。目標は掲げるがなかなか進んでいけなくなる。時期がずれると手がつけられない状況にもなってしまう。

事務局：前回は市やJAが主導していくべきだというご意見をいただいたが、耕作放棄地のところだと勘違いしていた。

委員：担い手はほかのところも同じだが、地元で就労してくれる人がいない。若い人をどこからか引っ張ってくるとなると宿舎なりいろいろな整備をしないといけない。やっていた部分もあるが、そこをある程度進めていけないと外の人でも定着しない。もう少し、取組を具体的に入れる必要があると思う。

事務局：この主な取組の下に実施計画がついてくる。実施計画は予算に基づいた計画となる。ここでは具体的なことは書けないが、担い手確保に向けた就業対策など環境整備を行いますということでカバーしている。

部会長：この内容は前は入っていなかった。ここはあまり細かく書かず、方策は別のシートに

でてくる。

事務局：実施計画に出てくる。それは予算計画でもあるので実施計画に基づいて行っていく。

委員：実施計画や予算の中で裏づけが反映されればよいと思う。

事務局：策定して解散ではないので過程をみてもらえたらと思う。

委員：12 ページの目標指数の中に特産品の売上数値が出ているが、付加価値の現状が1となっているが。これは何か。

事務局：美東ごぼうのことである。

委員：生産母数は減っても額が大きくなるので、なかなか数値として出にくい部分もあると思う。品質はなかなか数字に反映しづらいところはある。

部会長：商工業は販売出荷額が出ている。

委員：実際統計で出ている。農協さん協販ベースであるが。

部会長：農業は耕作放棄地や間伐面積など具体的な話になる。

委員：なかなか数値としては表しにくいところである。耕作放棄地面積で見ていくぐらいしか実際はない。

部会長：全体を通しての話だが目標値が入っているものと入っていないものの違いは。

事務局：所管課からということで集約はこれからである。

部会長：項目を検討ということになる。

委員：ミネコレクションは米のことか。

委員：梨はある。六次産業と書いてあるが一次産業の梨や栗なども入っている。本当の六次産業の加工品は億の単位になっていないのでは。これを見ていると結構売れるなど見てとれる。実際には加工食品はほとんど売れていない。

事務局：所管課もミネコレをよくしていくために、農林産物そのものはミネコレから外そうとしている。例えば米やごぼうなど素材はミネコレから外し、加工したものを対象にしようとしている。その中でこの指標は高すぎるので逆にこれをあげることで問題になるかもしれない。

委員：一次産業の生産額みたいなものになっている。農業生産額になっているのでは。

事務局：ミネコレの中の加工品額に変更したほうがよいかもしれない。

部会長：ミネコレと6次産業は別の話か。

事務局：同じものである。

委員：取組の中の1と3は加工品のことを指している。

委員：本来は加工品を伸ばしていかないといけない。その辺りが気になる。それからDMOを入れたのはよいが、目標としていつまでに作るのか。

部会長：今は令和ですが平成31年度中に候補法人登録をしないといけない。書類を出すのが今年度。一年間活動して認可されるのが翌年、令和2年になる。前の計画では平成31年度に設置されているとなっていたが、1年遅れる形となる。

委員：令和6年には動いているということか。

部会長：6年は動いている。2年から動くことになるし、登録するために1年間動かないといけない。

委員：13 ページで森林だけの鳥獣害となっているが、駆除頭数より、被害金額が出ている。被

害金額の総額が出てこれだけ投資している。これだけの被害額が出ていることを出したほうがみんなに認識される。

部会長：目標としては被害額が減るということになる。

事務局：耕作放棄地と同じく被害額を減らすのはなかなか難しいとは思う。MAXでも横ばいで目標を立てることになるかもしれない。

部会長：実際には数よりも額のほうが大切だと思う。

委員：それと処理ができない。取っても始末ができない。処理をするところがない。

事務局：活用という言葉で表現していた。

委員：中間処理施設がないとどうしようもない。

委員：1時間以内に処理しないと難しい。

委員：食肉については、HACCPが義務化されており、ジビエはかなり難しい。

委員：活かしたまま運ぶのはよい。小さな入れ物に入れてそのまま運ぶところもあるが大変である。猟友会にそこまでしてくれといってもできない。活用まで考えればであるが。

部会長：それが活用されれば六次産業化になるが、かなりハードルが高い。

委員：ほとんど内臓がいかれているので使えない。サファリがあっても餌にもならない。内臓がよくないので餌にもしてはいけない。

委員：豚コレラもある。鳥の糞を媒介して豚にいつている。

委員：これは社会問題にもなる。

委員：岐阜県は豚がいなくなるまでである。

部会長：このところは活用するなどうまい表現でお願いします。それと3ページだが、三洞外国人観光客数について、DMOと関わってくるところがあり、最初はインバウンドをターゲットにし、目標数をこれからはじき出すところである。ここでこの数値が先に出ると数字が合わないときにどうしたらよいのか。

事務局：この計画が表に出るとこの内容と整合性を取らないといけなくなる。この数値は観光振興課が出してきた数字だが、そこは調性してもらえたらと思う。

部会長：この数値はIOT実装で出したと聞いていが根拠がわからない。三洞外国人観光客数は今まで取っている数字である。

事務局：国に出した数値がこれだとしても、市としてはこの計画が最上位の計画となる。下に関連する計画とあるが、詳しくは観光振興計画でうたっていると表記している。この計画ができあがる10月末までに言っただけなら変更は可能である。

## (2) 第二次美祢市総合計画総合戦略の関係部門(案)について

しごとをつくる戦略について事務局説明

部会長：何か意見はありますか。

委員：5ページの1-4-4は1-4-3ではないか。

事務局：修正する。

部会長：1ページの戦略1-1-1のKPIについて先ほどと同様の考えでよいか。

事務局：はい。

委員：3 ページについて社会復帰センターでの作業もあるが、わからないので教えてほしい。  
雇うとするとかなり厳しい条件というのがあるのか。

事務局：今は社会復帰の訓練として受入れ企業を探しているステージと本当に卒業されて就労している2 段ステージがある。第1 段ステージはプライバシーなど規定の厳しさはある。

委員：出所後は関係ない。

委員：私が気にしているのは今入っている人で社会復帰プログラムの中で私たちの作業で大変忙しいときがあり、そのときをお願いしますとなると室内でないと駄目とか農業では使えませんといった制約などはあるのか。

委員：島根は出している。

事務局：これから人口減少で生産人口の問題からすると外国人労働者もそうだが、共生のまちづくりというのは重要な部分で多産業で考えると農業は当然視野に入ってくると思う。就労プログラムとして島根で事例があるのであればできない話しではないと思う。調べてみる。

委員：島根県は近くに農場をつくっているので少し美祢とケースが違う。

委員：梨を栽培するなかで単純な作業を手伝ってもらおうなど。忙しいときに。

委員：誰もがというのが短期でしかできない。

委員：受粉させる単純作業であれば障害者の方でもできる。

事務局：室内でできるような農業をこういった方々にしてもらおうなども水耕栽培などの農業の取組は市内の経済を動かすという観点でいうと有効かもしれない。

#### 人の流れを生み出す戦略について事務局説明

部会長：何か意見はありますか。

委員：中心市街地形成は都市計画部会なのか。

事務局：そうです。

委員：今日ここに歩いて来たが、ここに本庁舎が立ったとして分庁がなくなれば駐車場ばかりで全然良くない。歩いてみたらこの土地がすべて駐車場になるのかと思った。消防所もなくなる。保健センターもなくなる。農林課が入っているところもなくなる。一体どんなまちになるのか。本庁と駐車場のまちになるのかと思った。そこは都市計画部会ならまた別の機会に話すことにする。

部会長：6 ページのスポーツ・イベント等の拡大について、これについてもカルスト TRAILRUN 参加者数やカルストウォークをくくってしまっただろうか。何故かという秋吉台カルスト TRAILRUN 参加者数は現状値、目標値とあるが自然保護の関係で MAX700 人までしか受け入れられない。草を踏み潰してしまうのでそれ以上受けたいが受け入れては駄目となっている。そうなるスポーツでくくったほうがよいと思う。

委員：5 ページの子育てサポートの充実とあるが、見える数値、これから取り組まれるようなことがあるのか。まちづくりの中でも子育てサポートが大変重視されている。これでまちづくりされているところが他県ではある。この中で目に見えるものがあればと思う。

事務局：子育てサポートの充実として、その上の重点戦略2「結婚・産み育てたい！」願いが



叶う環境の充実ということで、ここの部会でなくひと・暮らし部会で話している。この部会では企業の関係ということでワーク・ライフ・バランスについて検討していただいている。今回議論いただいた後は総合戦略全体で話すので全体の会でご協議いただけたらと思う。

部会長：質問がないようなので以上を持ちまして議事2の進行を終えます。

#### **4 閉会**